

<2020年度 オリンピック・ムーブメント事業>

オリンピック教室

実施報告書

岐阜県 下呂市立金山中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和2年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことのできるものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2020年4月～2021年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目
運動の時間(50分)



2コマ目
座学の時間(50分)



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」
等を伝える



個人またはグループワーク
で話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間・座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

実施内容

■期 日 : 2020年11月25日(水)

■ク ラ ス : 2年1組(41名)

■オリンピアン : 馬淵 智子 先生(ソフトボール)【出場オリンピック/北京大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・ソフトボールで北京大会に出場したと自己紹介し、オリンピックで使用しているボールは硬い革製であることを実物を披露しながら説明。今日の授業を通じて、オリンピックについて身近に感じてもらえるようになって欲しい。約束事3点を守りながら楽しんで授業を受けて欲しいと授業の目的を確認。

3. 主運動



・2班1チームとなり、4チーム対抗で、ソフトボールパスリレーを実施。

4. まとめ



・運動の時間を振り返り、3つの約束事を守りながら運動できたかを確認し、皆が全力で取り組んでいたことを称えた。作戦を考えて、成功した、うまくいかなかったという結果や、勝負なので勝ち負けはあるが、全力で取り組むことが1番大切である。次の座学の時間ではオリンピックを通じて学んだことを経験に沿って伝えたいと話し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・北京大会の映像を流した後、自身がオリンピックで学んだことを伝え、オリンピックバリューについて考えていきたくと授業の目的を確認。オリンピックシンボルの意味等を紹介し、オリンピックのイメージを生徒に問い掛け、「夏季と冬季に分かれている」「会場がカラフル」「人がたくさんいる」「選手が一生懸命頑張っている」「チームワークが強い」等の意見が挙がる。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：普段の生活の中で、オリンピックバリューに当てはまると思うことを考えてみよう。

発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）

エクセレンス：「何事にも全力で取り組む」「部活の試合で全力で声を出す」「強い相手でも諦めず、一生懸命やる」等

フレンドシップ：「学校行事の準備で皆で協力し合う」「応援する」「困っている人にアドバイスをする」等

リスペクト：「部活の試合で勝っても負けてもありがとうございましたと言い、敬意を払う」「先生へ敬意を払う」「相手に敬意を持って接する」等

4. まとめ



・オリンピックバリューを意識することで、行動や気持ち、周りの人に掛ける言葉が変わってくる。オリンピック教室をきっかけに、今までできていなかったことを、ちょっと頑張ってみようかな、一つだけでも意識してやってみようかな、というように生活に組み込むことで、「できなかったことも頑張ってみよう」「話す機会がなかった子と話してみよう」等、皆が色々な気づきを得て、日常生活をより楽しく、より良い方向に変えていってくれるとうれしい。もう競技を引退したが、今でも日常生活の中でオリンピックバリューを意識する場面は多い。お互いにオリンピックバリューを心に留めて、これからも頑張っていこうと伝え、授業終了。

■ 集合写真

2年1組



■ 記念品贈呈

2年1組



■ 修了証贈呈

